

第2回 横浜市泉区民文化センター指定管理者選定評価委員会 会議録	
開催日時	令和7年2月18日(火) 9時30分～11時30分
開催場所	横浜市泉区役所 4AB会議室
出席者 (順不同)	石田委員(委員長)、木村委員(委員長職務代理者)、山下委員、馬場委員、伊藤委員(計5名)
欠席者	なし
開催形態	一部非公開(議事2以降)(傍聴者0人)
議題	1 指定管理者による自己評価について 2 業務評価報告書(案)について 3 その他
決定事項	第4期横浜市泉区民文化センター指定管理者業務評価について ・各評価項目の評点を以下のとおり決定した。 使命1「B」、使命2「B」、使命3「B」、使命4「B」、使命5「A」 横浜市の重要政策課題への取組「B」、 総合評価を「B」とする。 ・評価報告書(構成案)について、案の通り承認。評価に関するコメントを加え、後日、泉区長に提出し、公表することとする。
議事	1 指定管理者による自己評価について 指定管理者から自己評価の説明に関するプレゼンテーションを実施した。 (委員) 次年度に予定しているインターンシップの具体的な内容はどのようなものか。 (指定管理者) 学校と調整中の段階ではあるが、自主事業を行う際の表方裏方の体験に加え、企画立案の段階から携わってもらうことを検討している。また、館長・副館長によるレクチャーも併せて行いたい。 (委員) 今年2月に行われた「狂言の日」は素晴らしい取組だったと思う。以前行われた雅楽も含め、今後も伝統芸術文化に触れる機会を設けて欲しい。 (指定管理者) テアトルフォンテは、演劇向けに造られた施設ではあるが、和のテイストも意外とマッチし、来場者に好評であるため、今後も取り入れていきたいと考えている。 2 業務報告書(案)について (1) 行政評価の説明 (事務局) 貸館利用率について、会議前にお示しした資料では、時間区分(コマ)単位のみ記載をしていたが、その後、日単位の利用率も取っているということが判明したため、本日の資料では日単位の利用率も記載した。ホール利用率については、日単位であれば目標を達成している。 (委員) ホールは貸スタジオとは異なり、催しものによっては、時間区分(コマ)単位で貸出をすることが難しい場合も多くある。むしろ横浜市がカウント方法として時間区分(コマ)単位も採用していることに多少驚いた。ホールの利用率は日単位で考えていいと思われる。

(2) 各委員からの評価の説明・質疑応答及び評価の決定

(事務局) 本委員会では、令和6年度横浜市泉区民文化センター指定管理者評価表の「委員会評価」を審議のうえ、決定して欲しい。また、各項目の評価をもとに、報告書の「3(3)評価委員会による総評」の評価委員会コメントについても確認をお願いしたい。

・使命1「施設貸出業務への取組」について

(委員) スタッフ全員のサービス介助士取得は、高齢者が増えていく中で、高く評価できる取組だと思う。

委員会評価としては「B」と評価した。

・使命1「定量指標①②」について

(委員) イベント運営を行う立場としては、現在においてもコロナ禍を引きずっている。そのような社会情勢を鑑みると、この実績も致し方なくB評価で良いと思う。

(委員) あくまでも目標が“定量”指標であるため、数値が届いていないのであればC評価なのではないか。しかし、総来場者数については、目標が高すぎる。ホールの収容人数を考えると何度満員にしなければならぬのだろうか。

(委員) 自分もイベントをする中で、先の意見同様、コロナの状況を今なお引きずっていると感じている。社会状況を勘案するとこの数値は頑張っていると感じる。

(委員) 実際にイベント等を運営している方々の意見を聞くと、コロナ禍がまだまだ戻っていないことを実感した。

(委員) 総来場者数が目標と実績でかけ離れている。目標値が高いと言えども実績は低いと言わざるを得ないのではないだろうか。

(事務局) 評価を付けることに難しさはあるかと思うが、コメントにて評価できる点を記載するという方法を取ることもできる。

(委員) 評価に関わらず、この項目については応援コメントを採用し、コメントとして付したい。

委員会評価としては「C」と評価した。

・使命2「区民企画委員等」について

(委員) 目標は未達成であるが、その過程の努力が伺える。

(委員) 現場の気持ちがよく分かる。期待を込めてB評価としたい。

(委員) 企画関係の参加者(実績)が低いことが気になった。

(委員) こういった活動は、地道に長くやることが重要だと考えている。目標に達成していない項目もあるが、多くのことに取り組んでいることは評価できると思う。自己評価もC評価となっているため、コロナ禍の状況に負けず、努力したいという思いもあるように感じた。

(委員) この会議では、委員の様々な意見を取り込むことが重要なため、総合評価が低い結果になったとしても、コメントにて意見を取り入れたい。

委員会評価としては「C」と評価した。

- ・使命2「職業体験、インターンシップ、神奈川産学チャレンジプログラム」について
(委員) 本日の指定管理者によるプレゼンテーションにあったとおり、既に次年度へ向けて動き出しを行っているようなので、今後に期待するということになるだろうか。
委員会評価としては「C」と評価した。
- ・使命2「定量指標②施設の事業に協力する地域住民の人数」について
(委員) 実績が年々増加しており、令和6年度については2年目目標を超えている。令和4年度・令和5年度の実績の伸びは鈍いが、今後に期待したいという応援コメントを付したうえで、B評価で良いのではないか。
委員会評価としては「B」と評価した。
- ・使命4「定量指標②地域の施設・団体と連携して実施した事業数」について
(委員) 評価できる点として、テアトルフォンテの存在が学校の機能を補完しているように感じる。更なる地域との連携を期待する意味も込めて、B評価で良いのではないか。
委員会評価としては「B」と評価した。
- ・使命5「定量指標・定性指標」について
(委員) 目標どおりきちんと行っていると判断し、B評価で良いのではないか。
(委員) 行政評価がA評価の理由を教えて欲しい。
(事務局) 館長がビル管理メンテナンスの資格を保有しており、他の施設が経年劣化により修繕費が年々増加している中、自ら修繕を行うことにより、修繕を安価に抑えるとともに、予防修繕も行っている。
(委員) 建物が30年以上経過しているにも関わらず、見学してみると非常によく管理しているという印象を受けた。
現指定管理者が資格を保有し自ら修繕を行えるということは素晴らしいことだとは思いますが、そうでない指定管理者が評価されないということではなく、修繕案件の優先順位をつけ適切な修繕管理を行っていくことが大切で、その点を評価するというのを申し添えたい。
委員会評価としては「A」と評価した。
- ・「横浜市の重要政策課題への取組」について
(委員) 誰もが住み続けたいと実感する泉区の目指す姿を表現するロゴマーク(キャッチフレーズ)「#住むなら泉区」の推進に向け、引き続き頑張ってください。今後への期待を込めてB評価で良いのではないか。
委員会評価としては「B」と評価した。

	<p>(3) 評価委員会による総合評価について 各評価項目の評点を以下のとおり決定した。</p> <p>使命1 文化芸術の活動と体験の場となる 「B」 使命2 文化芸術活動を担う人材を育む 「B」 使命3 文化芸術の鑑賞の機会を提供する 「B」 使命4 幅広い人を文化活動に受け入れ、地域の力を結びつける 「B」 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う 「A」 その他 横浜市の重要政策課題への取組 「B」 総合評価 「B」</p> <p>(4) 評価報告書（構成案）について 事務局から事業報告書（案）について説明し、委員のコメントをまとめたうえで評価報告書（案）を事務局で作成し、委員の確認を経たうえで報告書として確定する。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>1 議案 令和6年度横浜市泉区民文化センター指定管理者業務評価報告書</p> <p>2 資料 （1）横浜市泉区民文化センター指定管理者選定評価委員会概要 （2）目標項目 （3）行政によるモニタリングを通じた業務執行の確認 （4）令和6年度横浜市泉区民文化センター指定管理者評価表</p>